

工学部(工学科)の3つのポリシー

【 学士(工学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のあふれる人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>工学部では、広く深い教養と専門的知識の修得はもとより、それらを諸課題に応用できる独創性教育、地球や人間に優しい環境教育、国際社会に対応できる語学や情報教育を重視し、豊かな人間性をもった優秀な技術者や研究者を育成すること、また、地域との連携を推進し、各産業分野の開発研究及び技術力の向上に貢献することを目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 工学部では、幅広い教養と深い専門的知識を修得し、卒業研究等を通じて諸課題に応用できる問題解決力や豊かな創造力とコミュニケーション能力を持ち、自然と共生しながら地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できる、倫理観・責任感を身に付けた者に学士(工学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 工学部では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つの能力を学修するため、教養教育科目、専門教育科目の学修を体系的に編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・1年次においては、教養教育科目及び専門的な共通基礎科目を基盤とした学修を実施する。また、大学教育にスムーズに入れるよう、初年次導入教育や共通専門 科目の学修も実施する。</p> <p>・2年次から3年次においては、専攻基礎科目等を中心とした学修から、次第に高度な専攻専門 科目を中心とした学修に移行する。</p> <p>・4年次においては、1年次から3年次までに修得した基礎的能力を基に、自主性、創造性及びプレゼンテーション能力を身に付け、広い教養と深い専門的知識を諸課題に応用できるよう、卒業研究指導を実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門的学識、問題発見・解決力、社会貢献力、そしてコミュニケーション能力を卒業時までには修得することができる資質を有する者を求める。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般選抜(前期日程、後期日程) 大学入学共通テストにより、数学、理科、情報に関する基礎学力、外国語、国語に関するコミュニケーションや表現に関する能力、地理歴史・公民に関する基礎知識を評価し、本学で課す教科・科目に係る個別テストまたは小論文により、専門分野で必要とされる応用力及び論理的思考力を評価し、工学を学ぶための適性を持つ者を選抜する。</p> <p>学校推薦型選抜Ⅰ/Ⅱ、帰国生徒選抜、社会人選抜 本学で課す面接、口頭試問等により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を評価し、次代の地域や国際社会を支える高度若手リーダーとなる意欲を有する者や最先端の「ものづくり」に強い関心を有する者を選抜する。</p> <p>専門学科・総合学科卒業生選抜 大学入学共通テストにより、数学、理科、情報に関する基礎学力、外国語、国語に関するコミュニケーションや表現に関する能力を評価し、工学を学ぶための適性を持つ者を選抜する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験で、日本語力、理科及び数学の基礎的学力を評価するとともに、本学で課す「面接」により、学習到達度、思考力、表現力、学習意欲等を評価し、工学に広く興味を持つ者を選抜する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 工学を学ぶために必要となる基礎学力(数学、物理、化学、生物、情報等)に加え、コミュニケーション能力に関連する国語や外国語(英語)をしっかりと学習しておくこと。また、世界の動向を理解するために必要な社会的知識(地理歴史・公民)等も学習しておくこと。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	
幅広い知識	【学修成果】 自然科学、人文科学、社会科学、芸術文化に関する幅広い教養を持ち、物事を多面的に理解し、技術者や研究者として社会に貢献できる能力を身に付けている。	【学修内容】 自然科学、人文科学、社会科学、芸術文化に関する幅広い教養を身に付けさせる。	【学修成果の評価方法】 科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。
専門的学識	【学修成果】 数学、物理、化学等の自然科学の知見を利用し、工学に関する知識を諸課題に応用することができる学識を身に付けている。	【学修内容】 数学、物理、化学等の自然科学を理解したうえで、工学に関する知識を身に付けさせる。	【学修成果の評価方法】 科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、専門的学識の修得度を客観的に評価する。
問題発見・解決力	【学修成果】 自ら課題を発見し、課題に関する情報を収集・分析するとともに、創造力や専門的学識を駆使して計画的に課題の解決に取り組むことができ、社会に役立つ創造的な製品や技術を創り出すことができる。	【学修内容】 自ら課題を発見し、課題に関する情報を収集・分析するとともに、創造力や専門的学識を駆使して計画的に課題の解決に取り組むことができる能力を身に付けさせる。	【学修成果の評価方法】 科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物により、修得した問題発見・解決力を客観的に評価する。
【到達指標】 自然科学、人文科学、社会科学、芸術文化に関する幅広い教養教育科目を修得していること。		【学修方法】 1年次、2年次を中心に、教養教育科目及び共通基礎科目と共通専門科目を学修させる。また、初年次において大学教育にスムーズに入れるよう、初年次導入教育を行う。	
【学修成果】 数学、物理、化学等の自然科学の知見を利用し、工学に関する知識を諸課題に応用することができる学識を身に付けている。		【学修方法】 基礎的な学問を理解し、応用力や独創性を発揮することができるように、各専門分野の共通基礎科目やその発展的な専攻基礎科目・専攻専門科目を体系的に学修させ、講義、演習、実験・実習等を通じて論理的思考力、応用力を育てる。	
【到達指標】 問題発見・解決力や創造力を育成できる、ものづくり教育に関する実習科目や実験系科目を修得していること。また、卒業論文を修得していること。		【学修方法】 ものづくり教育を重視した実習科目、実験科目及び卒業論文等を履修させることにより、問題発見・解決力、実践的技術者としての職業観、勤労観を育む教育機会を提供する。主体的な学びの力を高めるため、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。	
【求める資質・能力】 高等学校で修得する教科・科目を通じて、大学で教養を身に付けるために必要な基礎学力を有している。技術者や研究者として社会に貢献するために、自然科学、人文科学、社会科学、芸術文化に関する幅広い教養を身に付ける意欲を有している。		【求める資質・能力】 数学、物理、化学等の自然科学の知見を利用し、工学に関する専門的知識を諸課題に応用することに強い関心がある。	
【求める資質・能力】 工学を学ぶために必要となる基礎学力(数学、物理、化学、生物、情報等)に加え、コミュニケーション能力に関連する国語や外国語(英語)をしっかりと学習しておくこと。また、世界の動向を理解するために必要な社会的知識(地理歴史・公民)等も学習しておくこと。		【求める資質・能力】 自ら情報収集や分析を行うことにより、社会的な問題を発見することができ、創造力や工学的専門知識を駆使して、その問題を解決する意欲がある。	

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】	【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>社会貢献力</p> <p>【学修成果】 技術者や研究者として、倫理観や使命感を持って自ら行動することができ、地域社会や国際社会に貢献できる幅広い知識や深い工学的専門知識とその応用力を身に付けている。また、地域産業を理解するとともに、新たな地域産業を創出できる創造力等の能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 「地域課題解決型人材育成プログラム」及び、国際社会に通用する工学倫理・知的財産に関連する科目を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 技術者や研究者として、倫理観や使命感を持って地域社会や国際社会に貢献できる幅広い知識や深い工学的専門知識を修得させる。</p> <p>【学修方法】 倫理観や使命感を持って自ら行動し、地域と国際社会に貢献できる能力を身に付けるよう工学倫理に関する科目を学修させる。また、地域産業についての講演会やインターンシップ等を実施する。さらに、COC+で求める地域志向科目等を履修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、修得した社会貢献力の達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い教養や深い工学的専門知識を身に付け、倫理観や使命感を持った技術者や研究者として、地域社会や国際社会に貢献する意欲がある。 また、地域産業の創出や技術革新により社会に貢献できる。</p>
<p>コミュニケーション能力</p> <p>【学修成果】 技術者や研究者として必要な情報を収集して、分かり易く整理し、発表や報告し討論できる能力を備えている。また、多様な文化・社会を有する人々とコミュニケーションを取りながら、協働する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 必要な情報を収集し発信できる多様なコミュニケーション能力等を修得していること。実習や演習のレポート作成、卒業論文の作成、卒業論文発表において十分な評価を得ること。</p>	<p>【学修内容】 自主性、創造性及びプレゼンテーション能力を身に付け、深い専門的知識を諸課題に応用できるように、情報を収集、分析、整理し、分かり易く発表できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】 卒業研究、輪読において必要な情報の収集、研究会におけるプレゼンテーション、ディスカッション等によりコミュニケーション能力を修得させる。また、英語コミュニケーション能力を向上させるためにe-learning等を活用した学修を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 科目の特性に応じて、試験(外部の検定試験を含む)、レポート及び卒業研究発表等により、修得したコミュニケーション能力を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 技術者や研究者として、必要な情報を収集し、相手に分かり易く伝える意欲がある。 多様な文化・社会を有する人々とコミュニケーションを取りながら、価値のある討論を行うことにより協働する意欲がある。</p>